

第44回 北海道土を考える会

2021年8月5日



田村会長

7月10日(土)に土の館ホワイト農場(北海道富良野町)で第44回夏期研修会を開催しました。全道より約40名の会員が集まり、昨年はコロナ禍により中止せざるを得なかったため、研修会の開催を喜び、互いの近況報告をする場面が多く見られました。研修会に先立ち、田村裕良会長が、書面による総会決議の報告と、会の今後の運営について報告しました。なお、現在の役員体制で、来夏まで引き続き運営いたします。

2年振りの夏期研修会になりますが、今回のテーマは、「地力と作業性を向上させる緑肥と土壌の混和について」です。高収量・高品質を確保するための有機物の施用は、多くが化学肥料に代替され、減少してきました。しかし、その化学肥料は昨今の国際的な需要の高まりから価格の高騰が続いています。そんな中、輸送コスト等が課題となる堆肥と異なり、自作地内で完結できる緑肥による有機物施用が見直されてきているようです。

そこで、今回は従来の深耕プラウ(20インチ・リバーシブル・格子ボトム)と、新型の浅耕プラウ(13インチ・リバーシブル・スリックボトム)を用いて、反転具合を見比べました。16個のゴルフボールを事前に埋め込み、反転作業後に探し当てていただき、進行方向、横方向、深さの移動量を検証しました。その後、緑肥鋤込み作業後の断面を見比べて、プラウの起こし山の高さ、横方向の移動量、緑肥の鋤込み位置などを確認しました。また、フロントに装着した「リボンローラー」による緑肥の細断は、様々な土質や緑肥での効果を見てみたいとの声が上がっていました。



埋め込まれた16個のゴルフボール

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、屋外で対策を行ないながらの開催となり、研修会後の懇親の場は設けられませんでした。コロナ禍が落ち着き、ワイワイ情報交換を行なえる状況が待ち遠しく感じられます。

なお、今回は初めてライブ配信を行ないました。コロナ禍での措置ではありますが、他地区の土を考える会の会員にもモニター参加していただきました。



講師を務めた齊藤義宗氏



最新のプラウとクラシックトラクタのマッチング



噂のリボンローラーも登場



プラウの理解が深い人ほど見付けるのが速い!



マスクを一瞬外して記念撮影